(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第5539786号
(P5539786)
(45)発行日　平成26年7月2日(2014.7.2)　(24)登録日　平成26年5月9日(2014.5.9)

(51)Int.Cl.　F I
A45C 3/02 (2006.01)　A45C 3/02 N

請求項の数 4　(全 10 頁)

(21)出願番号　特願2010-115717(P2010-115717)
(22)出願日　平成22年5月19日(2010.5.19)
(65)公開番号　特開2011-239997(P2011-239997A)
(43)公開日　平成23年12月1日(2011.12.1)
審査請求日　平成24年11月28日(2012.11.28)

(73)特許権者　392030852
株式会社池田地球
大阪府大阪市中央区北久宝寺町１丁目２番８号
(73)特許権者　500067330
株式会社マルヨシ
東京都文京区千駄木３丁目４８番５号
(74)代理人　100100044
弁理士　秋山　重夫
(72)発明者　井上　哲也
大阪市中央区北久宝寺町１丁目２番８号　株式会社池田地球内
(72)発明者　丸吉　裕和
東京都文京区千駄木３－４８－５　株式会社マルヨシ内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ランドセルの蓋カバー

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
ランドセルの本体収納部を上部から前面にわたって被覆し、かつ、湾曲しながら被覆するランドセルの蓋の蓋カバーにおいて、
上記ランドセルの蓋の表面全体を覆う表カバー部と同蓋の裏面全体を覆う裏カバー部とを、上向きにその口部が開口するように袋状に縫合してなるランドセルの蓋を収容する袋部と、
前記裏カバー部とこの上端、または上端近辺にその上端が位置するように重合した生地とを、裏カバー部の左右のいずれか一方の側端に向かってその口部が開口するようにコ字状に縫合してなる収納部
とからなるランドセルの蓋の蓋カバー。
【請求項２】
前記収納部がランドセルの本体収納部の幅よりも幅広である請求項１記載のランドセルの蓋カバー。
【請求項３】
前記収納部の前面に副収納部を設けている請求項１または２記載のランドセルの蓋カバー。
【請求項４】
前記収納部が易滑性の素材によって形成されている請求項１、２または３記載のランドセルの蓋カバー。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は収納部を有するランドセルの蓋カバーに関する。
【背景技術】
【０００２】
ランドセルは一般に重量を軽量化するために、そのランドセル本体の収納部の大きさが制限されている。そのため、収納部に収容しきれない物は手提げバッグなどを利用している。
【０００３】
特許文献１には、ランドセルの収納部に収容しきれない物を収容するための大型ポケット部が付いたランドセルの蓋カバーが記載されている。この蓋カバーのポケット部は蓋の外側に設けられているので、収納物の出し入れが容易な反面、安全性に欠けている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２００４－２１５６８５号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
本発明は、収納物の出し入れが簡単容易で、かつ安全に収容することができるランドセルの蓋カバーを提供することを技術課題としている。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本発明のランドセルの蓋カバー（請求項１）は、ランドセルの本体収納部を上部から前面にわたって被覆し、かつ、湾曲しながら被覆するランドセルの蓋の蓋カバーにおいて、上記ランドセルの蓋の表面全体を覆う表カバー部と同蓋の裏面全体を覆う裏カバー部とを、上向きにその口部が開口するように袋状に縫合してなるランドセルの蓋を収容する袋部と、前記裏カバー部とこの上端、または上端近辺にその上端が位置するように重合した生地とを、裏カバー部の左右のいずれか一方の側端に向かってその口部が開口するようにコ字状に縫合してなる収納部とからなることを特徴としている。
【０００７】
前記収納部は、ランドセルの本体収納部の幅よりも幅広であるのが好ましい（請求項２）。
【０００９】
前記収納部は、その前面に副収納部を設けているのが好ましい（請求項３）。
【００１０】
前記収納部は、易滑性の素材によって形成されているのが好ましい（請求項４）。
【発明の効果】
【００１１】
本発明のランドセルの蓋カバー（請求項１）は、ランドセルの本体収納部を上部から前面にわたって被覆するものであるが、袋状に形成されているので、蓋の表裏を保護し、また蓋の定位置に取り付けることができる。また、収納部がその蓋カバーの裏面に形成されているので、閉蓋状態におけるその収納部は蓋とランドセルの本体収納部との間に位置する。つまりランドセルの内部に位置し、また、外出しない。したがって収納部に収容された収納物は安全な状態で携帯することができる。
さらに前記収納部が、この側部に口部を有しているので、閉蓋状態における蓋の側部は開放状態になっており、収納部の挿入口に指を挿し入れることは可能である。したがって、上記収納部に収容されている物は、ランドセルの蓋が閉まったままでも取り出すことができる。

【００１２】
前記収納部が、ランドセルの本体収納部の幅よりも幅広である場合（請求項２）、収納物が本体収納部の幅よりも幅広である場合、折りり畳まなくても原状のまま収容することが可能になっている。したがって収納物は折り畳み皺がなく、美麗な状態で収容しておくことができる。
【００１４】
前記収納部の前面に副収納部を設けている場合（請求項３）、安全な収納部をさらに確保することができる。
【００１５】
前記収納部が易滑性の素材によって形成されている場合（請求項４）、物の出し入れが軽快にできる。
なお、図４に示すように、本発明の蓋カバーを装着するランドセルの蓋（以下、蓋と称す。）Ａは、略矩形状になっており、ランドセルＢの本体収納部（主収納部Ｃの上部及びその前段の副収納部Ｄの前面）を覆うものを対象としている。閉蓋状態における上記ランドセルの本体収納部と蓋カバーとの間は両側が開放状態になる。蓋Ａの一端はランドセルＢの背板Ｅに固定され、同他端は自由端になっている。この自由端の下端には主収納部Ｃの底部に設けられている雌方錠前に着脱自在の雄方錠前ＦがＹ字形のベルトを介して設けられている。
【図面の簡単な説明】
【００１６】
【図１】本発明のランドセルの蓋カバーの裏面図である。
【図２】図１の表面図である。
【図３】図１の一部省力の拡大断面図である。
【図４】図１の蓋カバーの装着状態を示す斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１７】
本発明の蓋カバー１を装着するランドセルの蓋（以下、蓋と称す。）Ａは図４に示すように、縦長形状になっている。この蓋は、閉蓋状態またはランドセルの背負い状態において、上記の主収納部Ｃの上部を覆う部分が湾曲し、また、副収納部Ｄの前面を覆う部分がほぼ立状態となる。また、蓋Ａと上記各種収納部Ｃ、Ｄの間は前記のとおり、両側が開放されているので、その開放部から指を挿入して蓋Ａの内面に接触することは可能になっている。さらに、蓋Ａの幅は前記の収納部Ｃ、Ｄよりも幅広になっており、Ａ４サイズの用紙を収容するＡ４サイズ用のいわゆるクリアファイルよりも幅広になっている。
【００１８】
本発明の蓋カバー１は、図１乃至図３に示すように、上記ランドセルＢの蓋Ａの表面全体を覆う表カバー部２と同蓋の裏面全体を覆う裏カバー部３の各上端を除く周縁を縫合して袋状に形成（以下、袋部４と称す。）してなっている。また、表カバー部２の上端にはランドセルの背板の上端に設けられた吊り下げ鐶（図示省略）に係合するための伸縮性の引っかけ部材５が設けられている。引っかけ部材５を吊り下げ鐶に引っかけることによって、蓋カバー１は蓋Ａから落下するのが防止されている。
【００１９】
上記蓋カバー１は、図１に示すように、袋部４の上端が開口しており、蓋Ａを挿入するための口部６になっている。この口部６は、裏カバー部３の上端が表カバー部２の上端より少し下部にずれているので、開き易い。
【００２０】
表カバー部２は、可撓性及び張り性を有する透明の合成樹脂製シートからなっている。例えばポリ塩化ビニル製、またポリエチレン製のシートが好ましい。このものは防水性があるので、蓋Ａを雨水から保護することができる。また、ランドセルの蓋の色が透視できるので、蓋カバー１を装着していることがわかり難くなっている。そのため、蓋カバー１を装着しているという煩雑さがない。しかし、表カバー部２は半透明あるいは不透明のも

のであってもよい。さらに、防水性あるいは撥水性のある織物地であってもよい。

【００２１】

裏カバー部３は、図１に示すように、上下を分断して形成している。その上部は収納部７を兼ねている。この収納部は、図３にも示すように、第１収納部８とその表面の下部に形成された第２収納部９とからなっている。第１収納部８はランドセルの主収納部Ｃ及び副収納部Ｄ、また、蓋Ａの幅よりも幅広になっており、例えば可撓性のＡ４サイズ用のいわゆるクリアファイルなどの幅広の物を折り畳まないでそのままの状態で収容することが可能な大きさになっている。

【００２２】

第１収納部８は湾曲が可能な柔軟性と、収納物が滑らかに摺動可能な滑性、そして垂れにくい適度な張性とを有する生地によって形成されている。例えばナイロン製の織物生地が好ましい。第１収納部８は、図１及び図３に示すように、略矩形に形成された幅広の生地１０と少し幅狭の生地１１の一側端同士を重ね合わせ、他側端が開口するようにコ字形に縫合すると共に、表カバー部２に重ね合わせてそれぞれの両端を同時に縫合してなっている。また、第１収納部８の他側端の開口部は第１収納部８の口部１２になっている。この口部には、面ファスナー１３が取り付けられている。面フアスナー１３は指先で簡単に離脱させることができる。前記のとおり蓋カバー１は、裏カバー部３が滑り易いので、表カバー部が滑り難い素材であっても、蓋Ａは挿入し易くなっている。

【００２３】

第２収納部９は、図１及び図３に示すように、表カバー部２と同じ合成樹脂製シートを矩形に形成し、そのシートの一側端及び下側端を第１収納部８の一側端及び下側端に重ね合わせ、他側端が開口するようにコ字形に縫合して形成している。この第２収納部９の他側端は開口しており、第２収納部９の口部１４になっている。この口部１４は、第１収納部８の挿入口１２よりさらに内側にずれているので、挿入し易くなっている。

【００２４】

裏カバー部３の下部、つまり第１収納部８及び第２収納部９の下部は、表カバー部２と同じ合成樹脂製シートで形成されている。裏カバー部３の下端縁より少し上部には、図２及び図４に示すように、前記のＹ字形ベルトＦを外出させるためのスリット口１５が形成されている。下端縁１６は図４に示すように、蓋Ａの下端縁が係合可能になっている。

【００２５】

なお、蓋カバー１の袋部４は、ランドセルの蓋Ａがガタつかない程度の大きさになっているが、蓋Ａに装着した状態における蓋Ａの開閉が軽快におこなわれる大きさになっている。また、用紙等の薄物は当該袋部４にも収納させることは可能である。

【００２６】

また、第１収納部８の口部１２は蓋カバー１の側部の方向に位置するのが好ましいが、上部に設けてもよい。ただし、この場合、収納物の出し入れは蓋を開けて行うことなる。また、第２収納部９についても口部１４は側部方向に形成するのが好ましいが、上部に形成してもよい。

【００２７】

蓋カバー１は、図４に示すように、口部６より蓋Ａを挿入して袋部４に収容し、Ｙ字形ベルト及び雄方錠前Ｆをスリット口１５より外出して蓋Ａに装着する。さらに引っかけ部材５を吊り下げ鐶に引っかけておく。

【００２８】

第１収納部８は、ランドセルの閉蓋状態において、ランドセルの収納部Ｃ、Ｄと蓋Ａとの間に位置する。つまり第１収納部８に収容された収納物はランドセルの内部に収容されるので、安全である。

【００２９】

裏カバー部３は、前記のとおり、上部、中間部、そして下部の構成が異なっているので、その強度あるいは張り力が部分的に異なる。そのため、蓋Ａに装着した状態における蓋も部分的に強度あるいは張り力が部分的に異なってくる。裏カバー部３の上部は閉蓋状態

において湾曲する部分であるが、この部分は、柔軟であるので、蓋Ａの湾曲形成に悪影響はない。

【００３０】

また、第１収納部に可撓性のいわゆるＡ４サイズ用クリアファイルが収容された場合、蓋Ａの上部は湾曲形成されたクリアファイルの復元力で内側から外側に押し出されるので、湾曲形状が美しく形成される。

また、中間部は第２収納部が第１収納部に重合しているので、上部及び下部よりも張り力が強化されている。この部分は閉蓋状態において平坦になり、また、背負い状態において立状態になる部分であるので、その状態は張り力の強化によって美しく形成される。この部分は第１収納部に前記のクリアファイルに収容された用紙が収容された場合、さらに張り力が強化されるので、蓋は一層、美しい立状態を維持することができる。さらに、この部分の張り力が強化されることにより、上部の湾曲形状を一層、確実に保持することができる。

【００３１】

また、下部は、蓋の開閉操作を行うときに当該部分を持って開閉する部分なので、屈曲が頻繁に行われる部位であるが、前記第１収納部及び第２収納部とは完全に分離されているので、この第１収納部８及び第２収納部９に物が収容されていても軽快に屈曲させることができる。また、第１収納部及び第２収納部に収容された収納物は、下部が屈曲されても何ら影響はないので、折れ曲がるようなことは防止されている。

【００３２】

第１収納部及び第２収納部に収容された収納物は、前記のとおり、閉蓋状態において、ランドセルの内側、または内部に収容されるが、蓋と収納部の間は開放され、また、いずれの収納部も側部に挿入口があるので、わざわざ蓋を図４に示すように開けなくても閉蓋状態のまま口部１２より収納物を取り出すことができる。

【００３３】

前記の通り、この発明の蓋カバーはランドセルの蓋を外傷や雨水などから保護するだけではなく、ランドセルの収納部に収容しきれない幅広の物、例えば可撓性のＡ４サイズ用のいわゆるクリアファイルなどを収容することができ、また、安全に収納することができる。したがって、ランドセルの収納部に収容できない幅広の用紙をクリアファイルに収容したものを収容するためのバッグは不要である。

なお、第２収納部には幅狭の用紙、例えば時間割表などを収容するなど、自由に使用することができる。

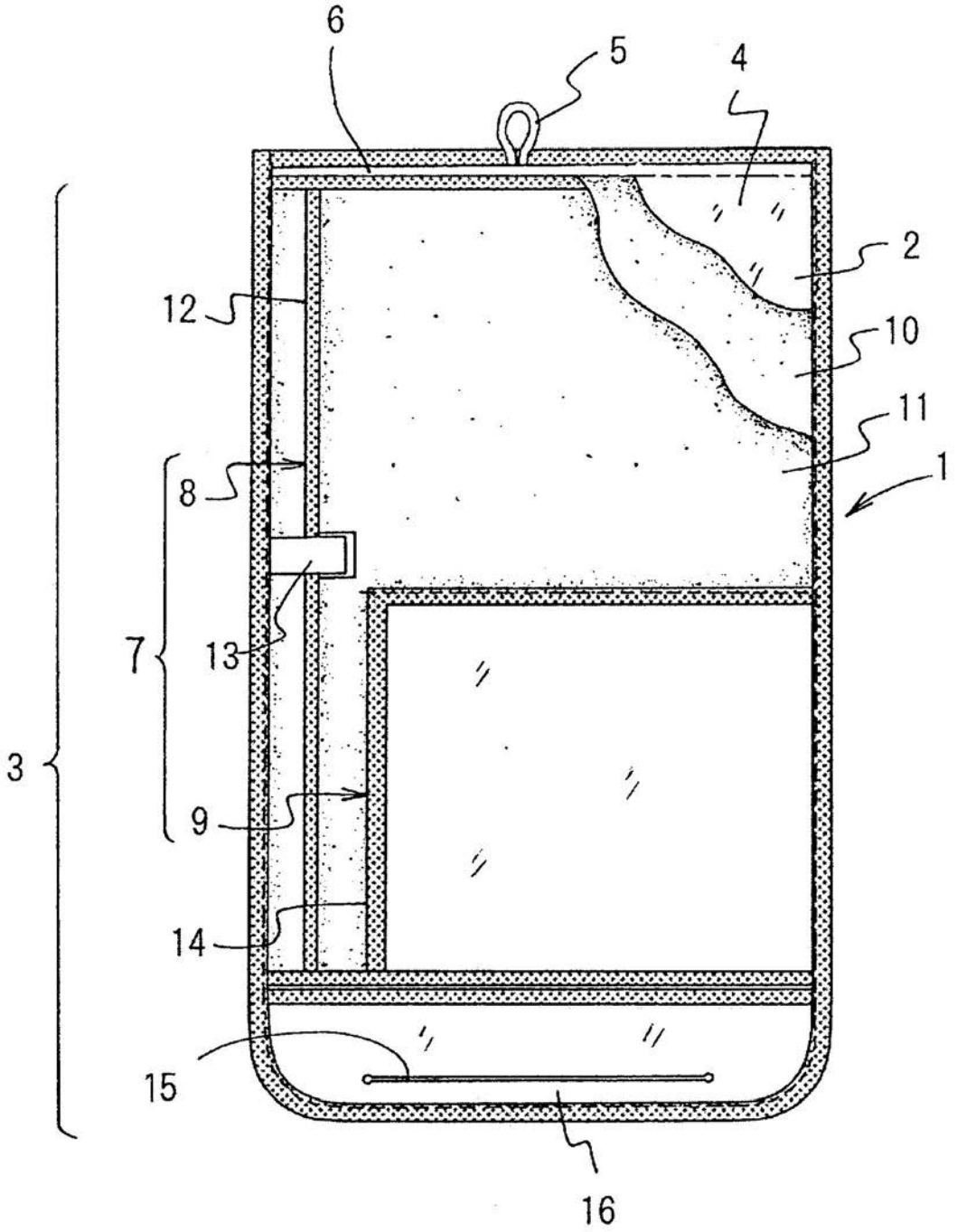
【符号の説明】

【００３４】

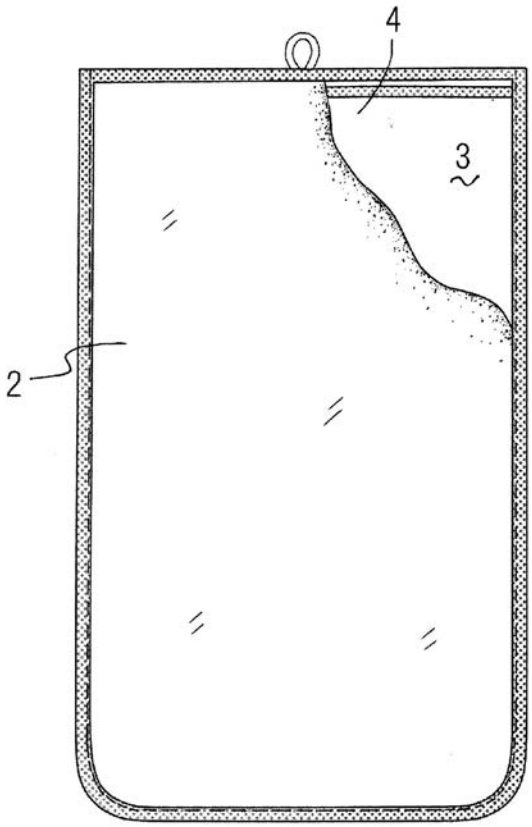
１　蓋カバー
２　表カバー部
３　裏カバー部
４　袋部
５　引っかけ部材
６　口部
７　収納部
８　第１収納部
９　第２収納部
１０　幅広の生地
１１　幅狭の生地
１２　口部
１３　面ファスナー
１４　口部
１５　スリット口
１６　下端縁

A　蓋
B　ランドセル
C　主収納部
D　副収納部

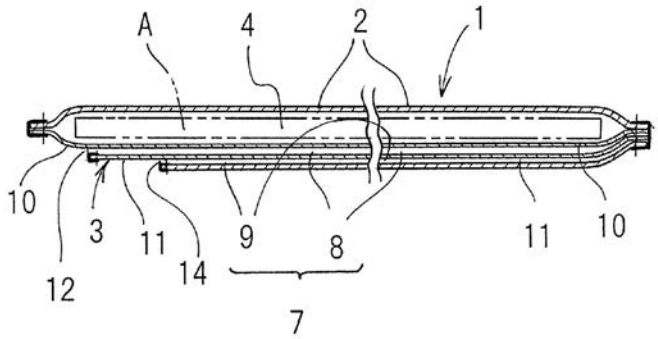
【図１】



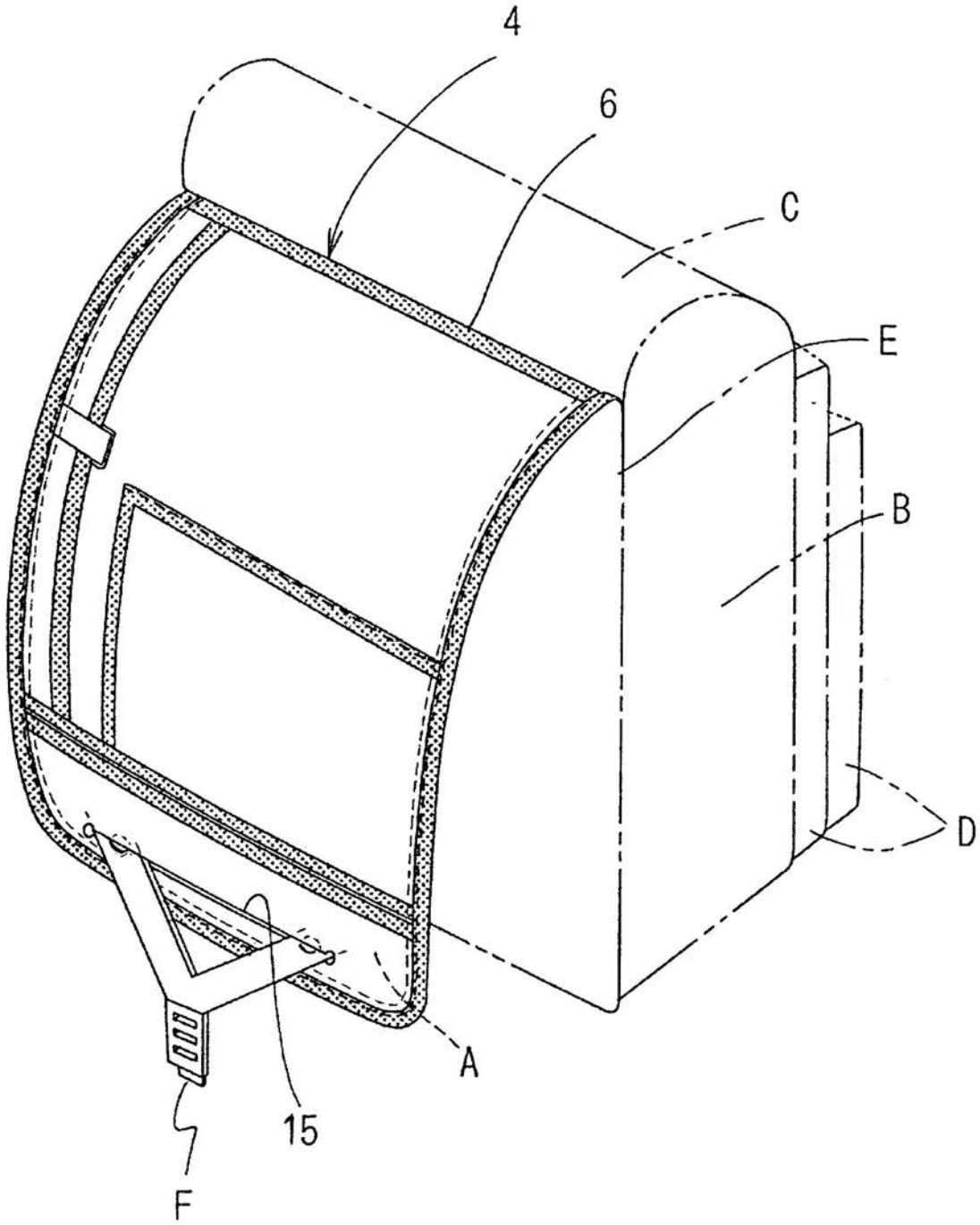
【図２】



【図３】



【図４】



フロントページの続き

審査官　青木　良憲

(56)参考文献　登録実用新案第３１６０９７０（ＪＰ，Ｕ）
特開２００５－１６８９０５（ＪＰ，Ａ）
特開２００４－２１５６８５（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４５Ｃ　　３／０２